

第1回ひょうごフィールドパビリオン 検討コアメンバー会議

令和4年3月3日(木)16:00~18:00
オンライン開催

【出席者】

(会議メンバー)

※五十音順

氏名	所属・役職
石川 路子	甲南大学地域連携センター所長・経済学部教授
小田垣 栄司	(株)ノヴィータ代表取締役会長
田林 信哉	ローカル・コーディネーター
平 櫛 武	キタイ設計(株)事業開発本部グループリーダー
古田 菜穂子	(公社)ひょうご観光本部ツーリズムプロデューサー

(アドバイザー)

氏名	所属・役職
橋爪 紳也	大阪府立大学研究機構特別教授

(兵庫県)

氏名	所属・役職
齋藤 元彦	知事
谷口 賢行	政策創生部長
川井 史彦	企画県民部地域創生局長
飯塚 知香子	企画県民部地域創生局企画参事(地域創生担当)
能登 栄治	企画県民部地域創生局企画官(地域資源担当)

【次 第】

1 開 会
あいさつ

2 議 題 : ひょうごフィールドパビリオン事業枠組みについて

【資料1】2025年大阪・関西万博・ひょうごフィールドパビリオンの展開

【資料2】事業枠組みの検討

意義～取組のありのままの姿を現場で見て、体験し、考える「ひょうごフィールドパビリオン」

- 万博の開催意義である「人類共通の諸課題の解決策提示」のモデルを兵庫各地の取組の現場で示す
- 地域団体や事業者の小さな取組の価値を、地域の人々自身が世界に発信し、地域の誇りにつなげる
- 世界から地域への人の流れをマネジメントする仕組みを21世紀型万博観光として確立し、レガシーとして残す

世界の人々が直面する課題

- ・大規模災害のリスク
- ・食や水の安全
- ・地域間格差（貧富の拡大）
- ・地球規模の気候変動
- ・資源やエネルギーの限界



兵庫が進めてきた取組

- ・大震災からの創造的復興
- ・地場産業や農林水産業
- ・空き施設・放棄地活用
- ・里山での暮らし
- ・健康と食
- ・祭りや伝統文化の継承

万博会場から五国各地のフィールドパビリオンへの人の流れの創出

ひょうごフィールドパビリオン

地域で取り組むプレイヤーが発信する「体験・対話の場」

- ・震災復興
- ・農林水産業
- ・地場産業
- ・伝統工芸
- ・健康と食
- ・まちづくり



無農薬での栽培が進む「コウノトリ育む米」



F1AT神戸
人と防災未来センター



オンリーワンのものづくり「播州織」

【旅の楽しみ】

- ・温泉
- ・地域ならではの食
- ・アクティビティ
- ・絶景

【快適な時間・空間】

- ・ガイド、多言語対応
- ・駐車場や最寄り駅からのアクセス手段
- ・休憩・食事スポット
- ・古民家など宿泊施設

ひょうごフィールドパビリオン実行委員会

【コーディネート機能】

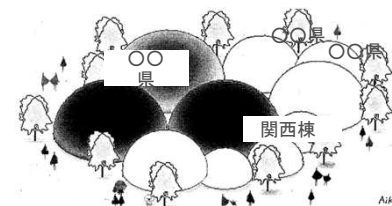
- 公募で参画する地域の人々がプレイヤーとなり、
- ・現地発着型ツアー造成、募集
- ・ホテル、交通機関、ガイド、通訳等の手配
- ・関連イベントの実施 等

【周遊促進策の検討】

- ・クルージングMICEでの観光も含めた海上交通の充実（神戸～淡路～大阪）
- ・バスなど二次交通の充実
- ・五国周遊パスや観光型MaaSの導入



万博会場「兵庫棟」



- ・関西広域連合パビリオンに参画、「兵庫棟」(仮称)を出展
- ・来場者に仮想体験や現地とのリアルタイム交流等を通じ、フィールドパビリオンの情報を発信
- ・グルメ、癒やし、絶景等、兵庫五国の観光地としての魅力を発信
- ・会場でのツアー申し込み受付

ひょうごフィールドパビリオン事業枠組

<議論用たたき台資料>

←ここに示している論点を議論して内容を決めていくイメージ
←論点そのものも議論して追加

〈 検討すべき項目案 〉

1. 基本的な考え方

2. 事業の概要

- (1) 事業の構成
- (2) 展開エリア
- (3) 実施主体

(プレイヤー主導、事業者連携、市町がフォローを基本)

3. フィールドパビリオン展開に向けて (想定案)

- (1) 展開方法のイメージ (目指す姿を見据えて募集方法を検討)
- (2) コンテンツの掘り起こし、機運醸成
- (3) プレツアーの実施 (課題の洗い出し、対応を要する項目の確認)
- (4) 広報、プロモーション
- (5) その他

4. 万博本番に向けたロードマップ

〈 事業枠組み策定に向けて 〉 (コアメンバー会議スケジュール)